

# 合戦図自在閲覧システム

## 統合モードの適用とその評価

Adaptation of the Integrated Mode of a Free Viewing System  
for Paintings of Battles and Its Evaluation

安達文夫・鈴木卓治・徳永幸生

ADACHI Fumio, SUZUKI Takuji and TOKUNAGA Yukio

はじめに

①歴史資料自在閲覧システムと統合モードの導入

②資料の公開条件と利用記録分析の基本

③利用特性

④統合モードの利用特性

むすび

### [論文要旨]

屏風や絵巻などの資料の画像を超高精細にデジタル化し、これを自由に移動し拡大・縮小して細部まで見ることができ、表示画像に応じて解説を表示できる歴史資料自在閲覧システムを研究開発し、展示や資料研究の場で適用してきた。そして、企画展示「武士とはなにか」において、『長篠合戦図屏風』、『前九年合戦絵詞』および『結城合戦絵詞』を同閲覧システムにより公開した。

同閲覧システムはマニュアルモードとシナリオモードを有している。前者は利用者の移動と拡大・縮小の操作で画面表示を変える。自由に見ることができるが、資料に不案内な利用者にとって、どのように見たらよいか分からない状況が生じる。後者は予め用意したシナリオに基づき画面表示する。案内の役割を果たすが、資料を熟知した利用者にとって自由度がない。そこで両機能を併せ持つ統合モードの研究開発を進めてきた。「武士とはなにか」において、資料に描かれた物語に沿って展示のテーマを伝えることが望まれた。自由に見ることも可能となるよう統合モードを初めて適用した。

統合モードの2つの機能がどのように使われているか、シナリオを構成するシーンの数が適切かを評価するため、同企画展示の際に収集した利用記録を基に利用特性を分析し、以下を明らかにした。

マニュアルとシナリオの両機能が使われるだけでなく、2つの操作を交えた閲覧がある。実際の閲覧と、統合モードを導入した、自由に見ることと案内に沿って見ることを両立させるねらいが合致している。

物語性が高い資料ではシナリオに沿った閲覧を主とし、それ程高くない資料ではマニュアル操作だけの閲覧やシナリオ操作にマニュアル操作を交えた自由な閲覧が多く行われている。

展示場で閲覧システムにより提供する複数のシーンに関して、Webでの資料画像の公開における事象と同様に、比較的早く閲覧を中止する利用者群と、多くの画面を閲覧しようとする利用者群がある。後者の画面を読み続ける確率は高く、このような利用者向けに提供するシーンの数として、30程度は多すぎない。

【キーワード】 画像閲覧、ビューア、展示システム、歴史資料、博物館資料